

事前の想定：（消波された沖側内水面で沈水・浮葉植物の再生を期待。）

モニタリング内容

- 植生調査（植生図作成調査）

結果概要

- 浅いワンドでは沈水植物が当初繁茂したが、現在は抽水植物による被陰により減退した（図1, 図5）。
- 境島の沈水植物が生育しているワンドでは、沖側内水面に比べ透視度が高い傾向にあった（図4）。
- 消波工内の沖側内水面でアサザ以外の浮葉植物としては、ヒシ、トチカガミおよびオニバスの生育が見られたが、オニバス群落の面積は縮小傾向にあった（図2,3）。沈水植物は確認されていない（図5）。

知見

- 消波された沖側内水面では浮葉植物の生育は可能であるが、沈水植物は再生しない。
- ワンドでは抽水植物により被陰されるまでは沈水、浮葉植物の生育が可能で、沖側内水面に比べ透視度が高い水質環境になる。

評価

- 消波された沖側内水面のような静穏水域の創出は、一部の地区において浮葉植物の群落再生に効果が認められる。しかし、水質等を含めた現在の環境条件では沈水植物は再生できていない。
- ワンドは沈水・浮葉植物の再生に有効であるが、次第に抽水植物による被陰で減退しており、維持管理の必要性や手法の検討が必要である。

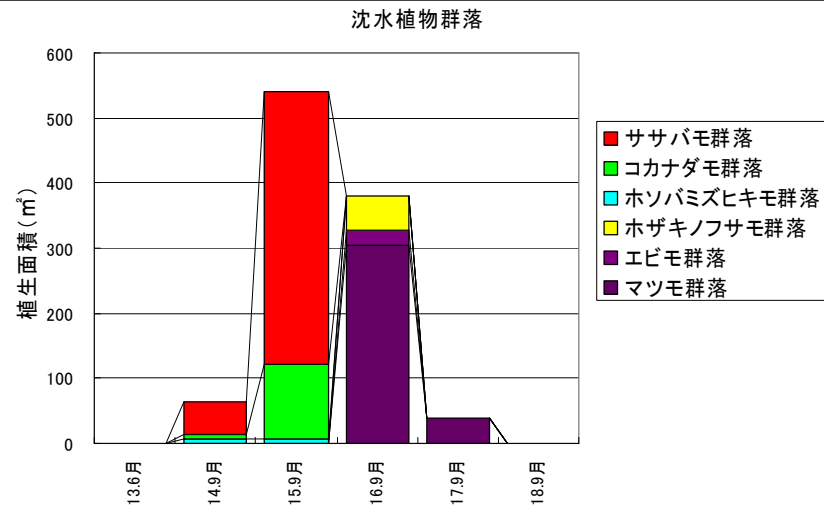


図1. 沈水植物群落の面積変化（11地区合計）

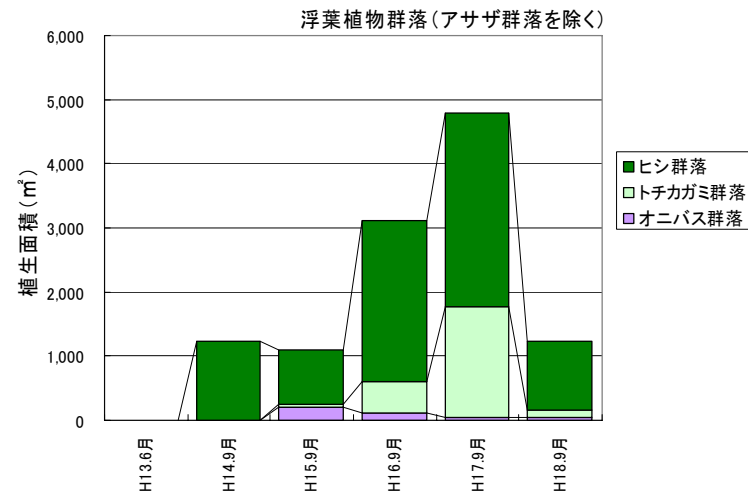
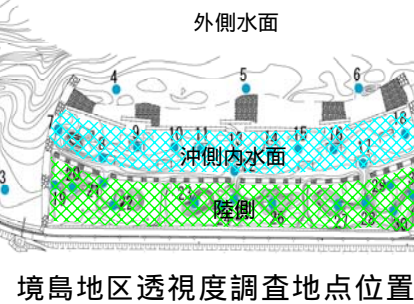
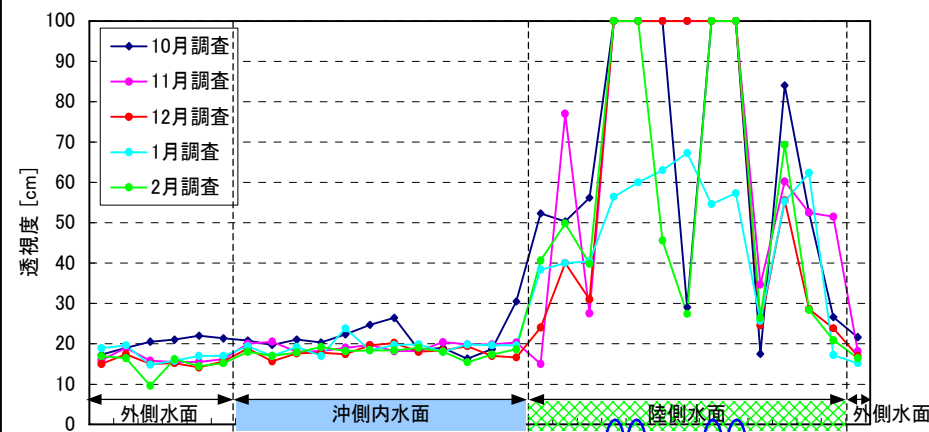


図2. 浮葉植物群落（アサザ以外）の面積変化（11地区合計）



境島地区透視度調査地点位置

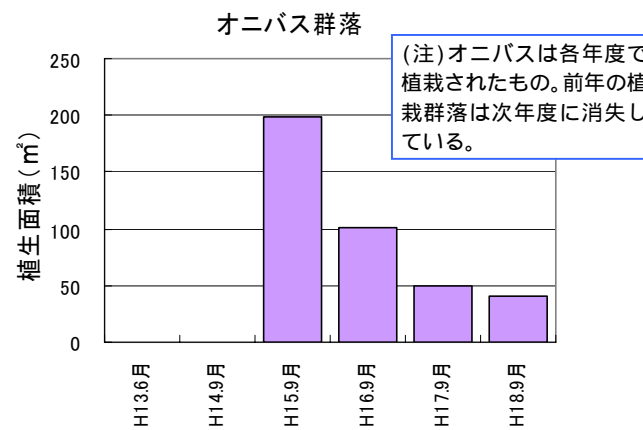
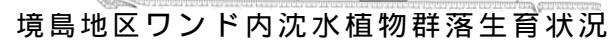


図3. オニバス群落の面積変化（石川地区）



境島地区ワンド内沈水植物群落生育状況

図4. 境島の沖側内水・陸側水面の透視度と沈水植物群落（平成17年度）

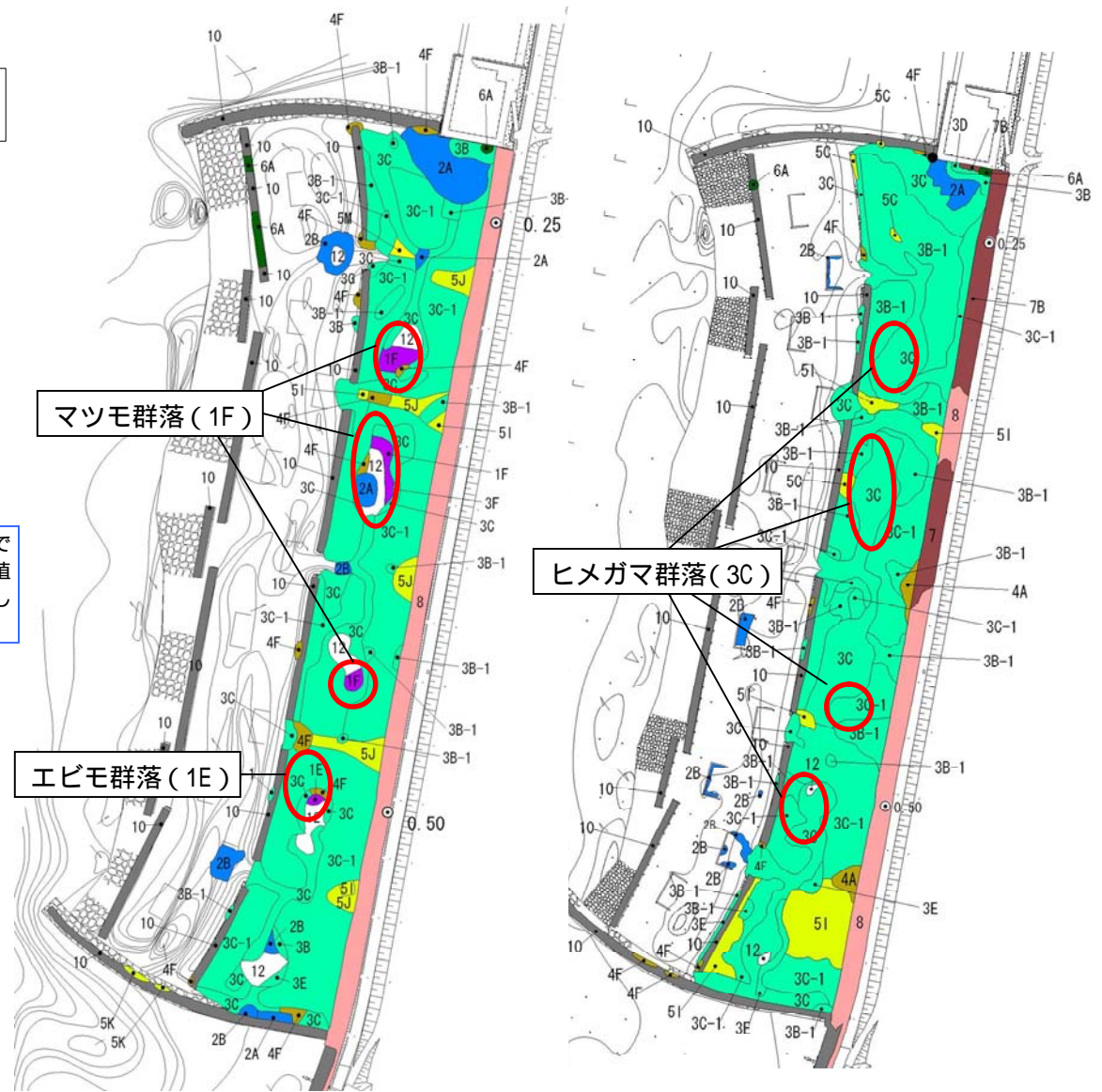


図5. 境島の植生図（沈水植物群落 ヒメガマ群落）